

報 道 資 料

令 和 7 年 7 月 9 日 （ 水 ）

教職員課

課 長 補 佐

坂口 宏仁

(内線 5 2 3 1)

定数管理係長

西山 武志

(内線 5 2 3 8)

(0742-27-9852)

令和 8 年度奈良県・大和高田市 公立学校教員採用候補者選考 1 次試験における出題の不備について

令和 7 年 6 月 1 4 日（土）実施の 1 次試験における下記の問題において、出題に不備がありました。

〔1〕～〔5〕は問題として不成立となるため、受験者全員正答の扱いとします。

また、〔6〕は、解答の際、誤解が生じるおそれのある問題であるため、受験者全員正答の扱いとします。

1. 該当箇所

- | | | | | |
|-------------------------|----|------|-------------|----------|
| 〔1〕 1 次試験の教職教養 | 大問 | 〔16〕 | | 〔詳細は別紙①〕 |
| 〔2〕 1 次試験の教科専門(中学校 技術) | 大問 | 〔2〕 | (1) ② | 〔詳細は別紙①〕 |
| 〔3〕 1 次試験の教科専門(高等学校 美術) | 大問 | 〔1〕 | | 〔詳細は別紙②〕 |
| 〔4〕 1 次試験の教科専門(高等学校 情報) | 大問 | 〔1〕 | (2) | 〔詳細は別紙③〕 |
| 〔5〕 1 次試験の教科専門(高等学校 情報) | 大問 | 〔5〕 | (1) エ及び (2) | 〔詳細は別紙④〕 |
| 〔6〕 1 次試験の教科専門(養護教諭) | 大問 | 〔3〕 | (1) (A) | 〔詳細は別紙⑤〕 |

- | | | | | | |
|---------|-------------|---------|---------|---------|-----|
| 2. 受験者数 | 〔1〕 教職教養 | 9 4 4 名 | 〔2〕 | 中学校 技術 | 4 名 |
| | 〔3〕 高等学校 美術 | 5 名 | 〔4〕、〔5〕 | 高等学校 情報 | 7 名 |
| | 〔6〕 養護教諭 | 7 3 名 | | | |

3. 判明した経緯

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 〔1〕～〔5〕 | 採点後、再度出題内容等の総点検を実施し、担当職員からの指摘により発覚 |
| 〔6〕 | 外部からの指摘により発覚 |

4. 出題の不備が生じた原因

試験問題作成時の点検が不十分であった

5. 再発防止策

試験問題作成にあたってのチェック体制・チェック方法及びスケジュールをあらためて見直すとともに、見直した内容について担当者への周知徹底を図ることにより、再発防止に努める。

事案の概要 1

教職教養 出題の不備について

<該当問題>

- 16 下のA～Cの文は、人格の類型論に関して述べたものである。正しいものを○、誤っているものを×としたとき、正しい組合せはどれか。□内の1～6から1つ選べ。

[解答番号 22]

- A シェルドンは、体型と性格との関連性を分析し、内臓緊張型、頭脳緊張型、身体緊張型の3つを区別している。
 B クレッチマーは、環境に対して心的エネルギー（リビドー）を向けやすいのが外向的、その反対に自分の主観的働きに心的エネルギーを向けやすいのが内向的という類型論を提案した。
 C ユングは、精神病と体型の関係に着目し、躁うつ気質、分裂気質、粘着気質の3類型からなる類型論を提案した。

1	A－○	B－○	C－○	2	A－×	B－○	C－×	3	A－○	B－○	C－×
4	A－×	B－×	C－○	5	A－○	B－×	C－×	6	A－×	B－×	C－×

【不備の内容について】

○ 内の語が誤っており、正答を導き出せない。

【誤】

【正】

内臓緊張型

内臓緊張型

事案の概要 2

教科専門(中学校 技術) 出題の不備について

<該当問題>

- 2 「学習指導要領」に関する次の各問いに答えよ。

- (1) 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 技術・家庭編 平成 29 年 7 月」に記載されている「技術分野の目標」の説明について、(①) ～ (⑩) に当てはまる適切な語を下のア～ソから選び、記号で答えよ。ただし、同じ番号には同じ記号が入るものとする。

技術の見方・考え方を働かせとは、技術分野では、技術の開発・利用の場面で用いられる「(①) や社会における事象を、技術との (②) の視点で捉え、社会からの要求、(③)、環境負荷や経済性などに着目して技術を (④) すること」などの技術ならではの**見方・考え方を働かせ**学習することを示している。技術は単なる (⑤) の応用ではなく、複数の側面から要求・ (⑥) を吟味し開発・利用が決定されるものである。このことを踏まれば、例えば、どのような (⑦) 価値を創造したり (⑧) の価値に変革をもたらしたりすべきかといった社会からの技術に対する要求と、開発・利用時の (③)、(⑨) に関する負荷、開発・利用に必要となる (⑩) 負担等の相反する要求の折り合いを付け、最適な解決策を考えることが技術分野ならではの学びとなるのである。そして、この技術の見方・考え方は、技術分野の学びだからこそ鍛えられるという意味で技術分野を学ぶ本質的な意義の中核といえる。さらに、今後遭遇する様々な技術に関する問題の解決場面においても働かせることができるという意味で技術分野の学びと (②) をつなぐものともいえる。

ア：経済的 イ：効率化 ウ：自然環境 エ：発展 オ：関わり
 カ：未来 キ：最適化 ク：既存 ケ：一般的 コ：安全性
 サ：新しい シ：古い ス：条件 セ：生活 ソ：自然科学

【不備の内容について】

リード文において、「同じ番号には同じ記号が入る」としており、(2) はその対象となるが、それぞれの解答には、違う語句が入り正答を導くことができない。

事案の概要 3

教科専門(高等学校 美術)出題の不備について

<該当問題>

- 1 次の ☐ 内の文は高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）「第 2 章 各学科に共通する各教科 第 7 節 芸術 第 2 款 各科目 第 4 美術 I 1 目標」についての記述である。下の各問いに答えよ。

（①）及び（②）の幅広い活動を通して、（③）な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる（④）・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）対象や事象を捉える（③）な視点について理解するとともに、（①）方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- （2）（③）なよさや美しさ、（①）の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、（⑤）を生み出し豊かに発想し（⑥）を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- （3）美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、（⑦）を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

（i）☐ 内の①～⑦に当てはまる語句をそれぞれ答えよ。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

（ii）☐ 内の（1）～（3）は観点別学習状況評価のどの観点に関連しているか、それぞれ答えよ。

【不備の内容について】

☐ 内の文は、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）美術科の目標であり、リード文との整合性がとれず、問題として成立しない。

《正》

- 1 次の ☐ 内の文は高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）「第 2 章 各学科に共通する各教科 第 7 節 芸術 第 2 款 各科目 第 4 美術 I 1 目標」についての記述である。下の各問いに答えよ。

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な（①）・考え方を働かせ、美的体験を重ね、（②）や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、（③）に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- （2）造形的なよさや美しさ、表現の（③）と創意工夫、美術の働きなどについて考え、（④）を生成し創造的に発想し（⑤）を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する（①）や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- （3）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を（⑥）する心情を育むとともに、（⑦）を高め、美術文化に親しみ、心豊かな（②）や社会を創造していく態度を養う。

（i）☐ 内の①～⑦に当てはまる語句をそれぞれ答えよ。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

（ii）☐ 内の（1）～（3）は観点別学習状況評価のどの観点について述べたものか、答えよ。

事案の概要 4

教科専門(高等学校 情報)出題の不備について

<該当問題>

1 次の各問いに答えよ。

- (2) 次の **ア** ～ **ウ** の文を、令和 6 年 12 月に公表された「初等中等教育段階における生成 A I の利用に関する暫定的なガイドライン」(文部科学省)に示された内容と照らし合わせたとき、その正誤の組み合わせとして正しいものを下の **1 ～ 8** から 1 つ選べ。

[解答番号 5]

- ア** 生成 A I の教育利用について、現時点では活用が有効な場面を検証しつつ、限定的な利用から始めることが適切である。
- イ** 全ての学校で、情報の真偽を確かめること(いわゆるファクトチェック)の習慣付けも含め、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させ、A I 時代に必要な資質・能力の向上を図る必要がある。
- ウ** 生成 A I の校務での活用については、個人情報やプライバシーに関する情報が生成 A I の機械学習に利用されることがあるため、活用すべきでない。

	1	2	3	4	5	6	7	8
ア	正	正	正	正	誤	誤	誤	誤
イ	正	正	誤	誤	正	正	誤	誤
ウ	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤

【不備の内容について】

_____ の語が誤っており、正答を導き出せない。

【誤】

「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」

【正】

「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」

事案の概要 5

教科専門(高等学校 情報)出題の不備について

<該当問題>

5 次の の文を読み、各問いに答えよ。

データに潜むパターンや構造をデータから自動的に学習する方法を ア 学習という。使用されるデータ分析のためのアルゴリズムは、データの与え方や学習の仕方の違いにより異なる。

イ 学習とは、あらかじめ与えられる学習用データである訓練データのようなものを与えずに、結果に対する応答によって機械に学習させていく手法である。ロボットの歩行制御などに生かされてきたが、近年ではその技術を自動運転に生かす取り組みも行われている。一方で、入力となるデータの出力に対応するラベルがあるとき、入力とラベルの対の集合を訓練データとして、そのデータをもとに入力となるデータから出力となるラベルを予測するモデルを学習することもでき、これを ウ 学習という。このとき、ラベルが連続値であれば ア 回帰、分散値であれば分類の問題となる。

また、 ア 学習は、統計学的手法と ニューラルネットワーク に分類することもできる。統計学的手法は、データの生成規則や分類規則を学習するものである。一方で、ニューラルネットワーク では、脳の構造を模したモデルが用いられる。脳の信号伝達の仕組みを人が扱える形で置き換えたものを形式 X といい、入力データから計算された値が ^{しきい} 閾値に従って 0 や 1 などの値を出力するモデルとして表すことができる。この形式 X を用いて表した単純なモデルを Y といい、多層 Y の中間層が複雑かつ多階層に構成してできた技術を エ 学習という。

(1) 空欄 ア ～ エ に当てはまるものを、次の 1 ～ 6 から1つずつ選べ。

1 教師あり 2 教師なし 3 強化 4 深層 5 機械 6 凡化

<input type="text"/> ア	[解答番号 34]
<input type="text"/> イ	[解答番号 35]
<input type="text"/> ウ	[解答番号 36]
<input type="text"/> エ	[解答番号 37]

(2) 空欄 X ・ Y に当てはまるものの組み合わせとして正しいものを、次の 1 ～ 4 から1つ選べ。

[解答番号 38]

	X	Y
1	ニューロン	リグレーションモデル
2	ニューロン	パーセプトロン
3	パーセプトロン	リグレーションモデル
4	パーセプトロン	ニューロン

【不備の内容について】

— の語句が誤っており、正答を導き出せない。

【誤】 「ニューラルネットワーク」

【正】 「ニューラルネットワーク」

事案の概要 6

教科専門(養護教諭)出題の不備について

<該当問題>

③ 「学校環境衛生管理マニュアル」(平成30年度改訂版 文部科学省)及び「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」(令和3年5月 環境省・文部科学省)に示されている内容について、問いに答えよ。

(1) 次の文は、「学校環境衛生管理マニュアル」(平成30年度改訂版 文部科学省)の「第Ⅱ章 学校環境衛生基準 第1 教室等の環境に係る学校環境衛生基準 1 換気及び保温等 (2) 温度 及び (3) 相対湿度」に示されている内容の一部である。次の (A) ～ (E) のうち、正しい説明には1、誤っている説明には2を選べ。

(A) 温度の学校環境衛生基準は、「17℃以上、28℃以下であることが望ましい。」としている。

[解答番号11]

【不備の内容について】

令和4年4月に学校環境衛生基準が一部改訂されており、現在は、下限の温度が変更されている。平成30年度改訂版のマニュアルに基づいて正答を導くのか、現行の「温度の学校環境衛生基準」に基づいて正答を導くのか、解答の際、誤解を生じるおそれのある問題である。

令和8年度 奈良県・大和高田市 公立学校教員採用候補者選考試験 1次試験の結果

令和7年7月9日

	採用予定者数		出願者数		1次免除者数		1次受験者数		1次合格者数		1次合格倍率	
	令和7年度	令和8年度	令和7年度	令和8年度	令和7年度	令和8年度	令和7年度	令和8年度	令和7年度	令和8年度	令和7年度	令和8年度
小学校	145	156	581	586	290	311	263	249	168	172	1.6	1.4
中学校	85	87	461	420	130	146	300	246	156	161	1.9	1.5
高等学校	78	81	438	386	101	86	297	269	177	179	1.7	1.5
特別支援学校	40	40	137	111	48	38	79	71	56	49	1.4	1.4
養護教諭	12	12	145	135	51	49	88	73	30	35	2.9	2.1
栄養教諭	4	4	28	22	4	7	19	13	9	7	2.1	1.9
実習助手 寄宿舎指導員	3	3	28	29	13	10	11	15	4	8	2.8	1.9
合計	367	383	1818	1689	637	647	1057	936	600	611	1.8	1.5

校種・教科		採用 予定者数 A	総出願者数 B	障害者 特別選考 ※I	出願時 倍率 (B/A)	1次免除者 C	1次 欠席者数 D	1次 受験者数 E (B-C-D)	1次 合格者数 F	1次 合格倍率 (E/F)	令和7年度 1次 合格倍率
小学校		156	586	5	3.8	311	26	249	172	1.4	1.6
中学校	国語	14	49		3.5	17	5	27	25	1.1	1.8
	社会	10	98		9.8	32	6	60	24	2.5	3.5
	数学	14	48		3.4	16	2	30	23	1.3	1.5
	理科	11	26		2.4	6	2	18	16	1.1	1.3
	音楽	5	23		4.6	4	4	15	12	1.3	2.6
	美術	4	17	1	4.3	4	1	12	8	1.5	1.3
	保体	7	93		13.3	40	5	48	23	2.1	2.0
	技術	7	6		2.1	2	0	4	8	1.3	1.2
	家庭		9			2	1	6			
	英語	15	51		3.4	23	2	26	22	1.2	1.8
	小計	87	420	1	4.8	146	28	246	161	1.5	1.9
高等学校	国語	15	35		2.3	6	1	28	23	1.2	1.2
	地歴	13	75	2	5.8	13	7	55	27	2.0	2.3
	数学	9	42		4.7	16	2	24	16	1.5	1.5
	理科(物理)	6	5		4.2	0	0	5	12	1.2	1.3
	理科(化学)		9			4	1	4			
	理科(生物)		11			5	1	5			
	音楽	1	8		8.0	1	2	5	5	1.0	1.0
	美術	1	7		7.0	1	1	5	5	1.0	1.3
	書道	1	11		11.0	3	0	8	5	1.6	2.7
	保体	8	90		11.3	18	10	62	33	1.9	2.4
	英語	13	43		3.3	8	2	33	26	1.3	1.2
	家庭	3	7		2.3	2	0	5	5	1.0	1.6
	農業	3	7		2.3	0	1	6	6	1.0	1.3
	工業(機械)	3	6		3.7	3	0	3	5	1.2	1.0
	工業(電気)		5			2	0	3			
	商業	3	13	2	4.3	1	1	11	7	1.6	1.8
	情報	2	12		6.0	3	2	7	4	1.8	1.3
	小計	81	386	4	4.8	86	31	269	179	1.5	1.7
特別支援学校		40	111	1	2.8	38	2	71	49	1.4	1.4
養護教諭		12	135		11.3	49	13	73	35	2.1	2.9
栄養教諭		4	22		5.5	7	2	13	7	1.9	2.1
実習助手・寄宿舎指導員		3	29	1	9.7	10	4	15	8	1.9	2.8
合計		383	1689	12	4.4	647	106	936	611	1.5	1.8

※I 総出願者数の内数

令和 8 年度奈良県・大和高田市 公立学校教員採用候補者選考試験 今後の予定

【1 次試験の結果発表】

令和 7 年 7 月 9 日（水）

教職員課 Web ページに 1 次試験合格者の受験番号をアップ

1 次試験受験者（欠席者を除く）に結果を電子メールにて通知

【2 次試験】

1 実施日及び試験会場

（1）集団面接

令和 7 年 7 月 19 日（土）、20 日（日）の 2 日間

予備日 令和 7 年 7 月 26 日（土）、27 日（日）

県立奈良高等学校 〒631-0806 奈良市朱雀 2-11 TEL 0742-71-2477

（2）個人面接

令和 7 年 8 月 7 日（木）～10 日（日）、12 日（火）～15 日（金）の 8 日間

予備日 令和 7 年 8 月 16 日（土）、17 日（日）

県立高等養護学校 〒636-0344 磯城郡田原本町宮森 34-1 TEL 0744-33-2626

県立磯城野高等学校 〒636-0300 磯城郡田原本町 258 TEL 0744-32-2281

2 2 次試験の結果発表

令和 7 年 9 月 5 日（金）

午後 2 時 教職員課 Web ページに 2 次試験合格者の受験番号をアップ

2 次試験受験者（欠席者を除く）に結果を郵送